

1 梨の生育状況

梨の結実は、平年に比べ、並～やや良となっています。なお「幸水」の長果枝では肥大が劣る果実が散見されます。

2 黒星病について

- 現在発病している、果実や果実の軸、葉の黒星病斑、芽基部病斑が感染源となり、降雨のたびに感染が広がる恐れがあります。
- これらを見つけ次第、早急に切除して園外に持ち出し、適正に処分してください。

(1) 落葉からの子う胞子の飛散

モニタリング調査(人為的に落葉を敷き詰め子う胞子の飛散を調査)では、多雨の影響により、4月20日～5月20日の落葉からの子う胞子累積補足数が274個/c㎡(昨年同時期0.4個/c㎡)と極めて多い状況でした。

(2) 果そうの発病率

表1のとおり、5月中旬における「幸水」果そうの発病率は多発年となったH27年以降、最も高くなっており、「豊水」はH27年以降、H30年に次いで高くなっています。

表1 年次別の5月中旬の黒星病発病果そう率(%) 令和4年調査日: 5月19日

品種	R4	R3	R2	R元	H30	H29	H28
幸水	13.6	2.4	0.3	0.8	7.4	3.1	5.9
豊水	7.3	0.6	0.4	0.7	7.8	12.1	5.9
あきづき	0.5	1.0	0.0	0.5	2.5	2.5	0.0
新高	0.5	0.0	0.0	0.0	1.4	1.1	0.4

※H27(多発年)は6月から調査を実施

3 仕上げ摘果作業について

- ・仕上げ摘果は満開60日後(6月16日)頃を目安に終了するよう作業を進めてください。
- ・摘果作業は、果実の大きさ、形、果軸の太さ、傷の有無、果実の向き(上向き果や重度なサビダニの被害果は軸折れの恐れあり)等を考慮して表2の着果量を目安に進めましょう。
- ・なお、黒星病の罹病果は確実に切除して園外に持ち出し、適正に処分してください。

表2 仕上げ摘果時の着果量(目安)

品種名	1㎡当たりの着果量	側枝長当たり(100~120cm)	1樹当たりの着果量(3間植の場合)
幸水	10~11果	5~6個	290~320果/樹
豊水	11~12果	6~7個	320~350果/樹
あきづき	11~12果	6~7個	320~350果/樹
新高	9~10果	4~5個	260~290果/樹

4 新梢管理について

- ・短果枝群や側枝の基部では葉の展葉にともない薬剤透過が劣り、黒星病の感染・発病のおそれとなることから、摘果作業と並行して、図1のとおり「芽かき」を実施してください。



図1 芽かき作業(左:芽かき前 右:芽かき後)

- ・側枝は先端付近の新梢2本程度を残してそれ以外の新梢は摘心(図2)、予備枝は先端の新梢1本を残して摘心(図3)してください。この作業により、薬剤透過を良好にするとともに、新梢葉への黒星病の発生防止に努めてください。
- ・なお、樹勢の低下した樹では、芽かき、摘心を極力控え、樹勢回復に努めてください。

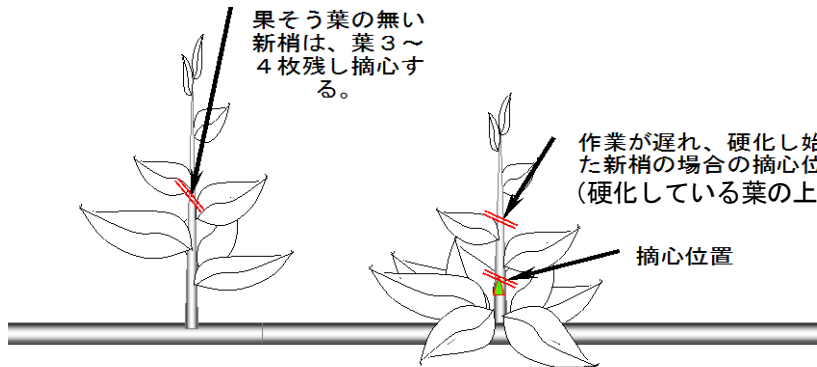


図2 側枝の摘心

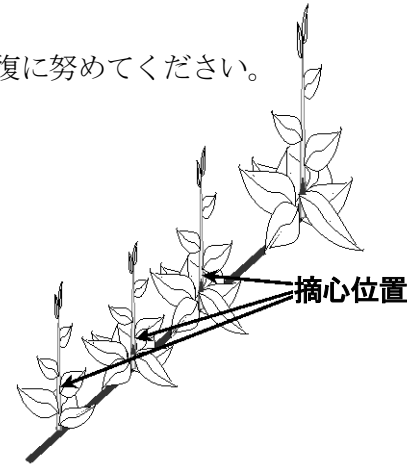


図3 予備枝の摘心

5 これからの防除について

- ★防除は「降雨前」、SSは「低圧、低速、全列走行」を心掛け、散布ムラがないように努めてください。
- ★防除開始時間は午前5時以降としてください(午前4時台にSSのファンを回さないでください)。

回数	散布月日	薬剤名と希釈倍数	散布量	主な対象病害虫	防除実施日 (自己記入)
9	5月31~ 6月2日	ベルコートフロアブル ファルコンフロアブル 1,500倍 6,000倍	300 リットル	黒星病、輪紋病、 うどんこ病 ハマキムシ類、ケムシ類	
10	6月7~9日	オキシラン水和剤 アプロードフロアブル 600倍 1,000倍	300 リットル	黒星病、輪紋病 カイガラムシ類幼虫	
11	6月14~16日	キャプレート水和剤 スミチオン水和剤40 600倍 1,000倍	300 リットル	黒星病、輪紋病 シクイムシ類、ハマキムシ類 アブラムシ類、カメムシ類、 クワコナカイガラムシ	
12	6月21~23日	オキシラン水和剤 サムコルフロアブル10 600倍 5,000倍	300 リットル	黒星病、輪紋病 シクイムシ類、ハマキムシ類 ケムシ類	
13	6月26~28日	ダニゲッターフロアブル 2,000倍	400 リットル	ハダニ類、 ニセナシサビダニ	
●殺ダニ剤の効果を十分発揮させるため、散布前には必ず草刈りを実施しましょう					

※黒星病の発生が多い園地では、13回目の防除で、ダニゲッターフロアブルにユニックス顆粒水和剤47(2,000倍 年間3回まで)を加用してください。

※12回目と13回目の散布間隔は5日間となります。

※ハダニ類の発生が早い場合は、アカリタッチ乳剤(2,000倍)を散布し、密度低下を図ってから「ダニゲッターフロアブル」を使用してください。

※散布に当たっては、希釈倍数や対象病害虫など、農薬容器のラベルを必ず確認してください。

※こまめに水分を補給するなど、熱中症に留意してください。

周囲の農作物や住宅等への農薬の飛散に十分注意して散布してください。
特に、通学路に面した園地では登下校時の時間帯を考慮して散布してください。